

## 世界の切手に見る消防関係の切手 (5)

平岩道夫 (切手評論家)



(写真①)



(写真②)



(写真③)



(写真④)



(写真⑤)



(写真⑥)

本号では、まず4枚シリーズのユニークな切手から、紹介してみたい。

この4枚の切手は、いずれもイギリスから発行されたもので、切手には“イギリス”という国名が描かれていないが、間違いなくイギリスの切手。4枚の切手の右上を、もう一度よく見ていただきたい。4枚とも同じように“女王”の肖像シルエットが入っている。そう“女王”のシルエットが国名に代行しているというわけである。

(写真①)は、100年前のいわゆる初期の救急活動風景を描いたもの。現在のような“自動車”ではなく、ちょっと見たところ、まるで荷車風——。

(写真②)は、1940年つまり戦時中の救急活動風景で、ケガ人を看護する救急隊員を描いた切手。

(写真③)は、1965年に起きたあるイベント会場で倒れた女性がタンカに乗せられて、看護婦が頭に手を当て、熱の有無を調べている様子が描かれている。

(写真④)は、1987年における内臓移植手術のため、提供者から摘出された内臓を患者に届けようと、受け渡す様子。

(写真⑤)は、これまたショッキングな凶案の切手——と世界で話題をにぎわせているもの。オーストリア発行の切手だが、文字通り“マッチ1本火事のもと”をズバリ表現している。

(写真⑥)は、救急活動には忘れられない看護婦を描いた切手。写真は看護婦のカガミといわれているクララ・マース生誕100年を記念して、1976年8月18日にアメリカから発行された。